

船岡山遺跡発掘調査概要

1980

和歌山県教育委員会

例 言

1. 本書は、和歌山県が建設省近畿地方建設局より委託を受けて実施した昭和54年度船岡山遺跡発掘調査の概要報告である。
2. 本発掘調査に要した経費12,000千円はすべて建設省近畿地方建設局が負担した。
3. 発掘調査は、和歌山県教育委員会の指導のもとに社団法人和歌山県文化財研究会が和歌山県より委託を受け事業を実施した。
4. 発掘調査は、和歌山県教育委員会文化財課技師松田正昭、社団法人和歌山県文化財研究会技術員富加見泰彦、同渋谷高秀を担当者として実施し、和歌山県文化財保護審議会 小野山節、羯磨正信、巽 三郎、藤澤一夫各委員からは随時現地において指導を受けた。

また、奈良国立文化財研究所 菅原正明技官、高槻市立埋蔵文化財調査センター 富成哲也、同橋本久和の各氏からは、現地において助言を得た。

5. 調査にあたって建設省近畿地方建設局和歌山工事事務所、同かつらぎ出張所、かつらぎ町教育委員会から種々配慮をうけた。
6. 本書の図版に使用した航空写真は、パシフィック航業株式会社、株式会社大阪写真測量所において撮影されたものの提供をうけた。
7. 出土遺物の整理、図面作成にあたって奈良大学生土井孝之君の援助をうけた。
8. 本書の作成は、調査担当者が分担し作成したものを松田が編集した。
9. 本発掘調査事業の調査組織は次のとおりである。

和歌山県文化財保護審議会

委員 小野山 節	委員 羯磨正信
委員 巽 三郎	委員 藤澤一夫

和歌山県教育委員会事務局

教育長 高橋正司
教育次長 三宅秀彦(兼、社団法人和歌山県文化財研究会常務理事)

文化財課

課長 井上 至 ()	
主幹 山田 義男 ()	事務局次長

文化財 第二係長	桃野真晃	(◇	◇ 幹事)
技師	松田正昭	(◇	技術員)
主事	田尻佳敬	(◇	書記)

社団法人和歌山県文化財研究会事務局

事務局長	海野正幸			
技術員	富加見泰彦	渋谷高秀		
書記	戸口郁英	平松佐知子		
嘱託	道本久美			

目 次

1. 調査に至る経緯と経過	1
2. 調査の方法	1
3. 位置と環境	1
4. 調査の概要	3
5. 出土遺物	5
6. 結 語	6

挿図目次

第1図 トレンチ配置図	第3図 配石遺構実測図
第2図 土坑幕実測図	第4図 出土遺物実測図

図版目次

PL 1 船岡山遺跡位置図	PL 8 船岡山遺跡遠景写真
PL 2 西拡張区遺構配置図	PL 9 発掘調査状況写真
PL 3 調査地区土層図	PL 10 西拡張区
PL 4 出土遺物実測図	PL 11 出土遺物
PL 5 出土遺物実測図	PL 12 出土遺物
PL 6 船岡山遺跡航空写真	PL 13 出土遺物
PL 7 船岡山遺跡周辺航空写真	

1. 調査の経緯と経過

建設省近畿地方建設局は、かつらぎ町洗田の妹山麓の紀の川南岸と中島・船岡山間の狭隘部を開削し、流路拡幅のうえ護岸、築堤工事を改修計画の一環としてもっていたが、掘削の対象とされた船岡山には、弥生時代の遺跡である船岡山遺跡が周知されていたため近畿地方建設局和歌山工事々務所とその取り扱いについて協議を進めた。

協議の結果、船岡山遺跡は昭和25年に金谷克己氏等によって小規模な調査が行なわれたのみで、その範囲等については不明であるので昭和54年度において遺跡の範囲、内容等を確認するための調査を実施することとし、その調査結果に基づき次年度以降の取り扱いを再度協議することになった。

調査は、建設省が掘削を予定している部分全域を対象とし、幅員2mの試掘溝を設定しそれぞれについて調査状況写真、土層断面図等を作成した。

調査途中、大雨による紀の川増水のため船岡山へ渡る唯一の橋の流失が一再ならずおこり、調査の遅延が心配されたが、当初予定の試掘調査が見込みより早期に終了することが確実になったため、近畿地方建設局和歌山工事々務所と昭和55年1月31日付けで事業計画変更の協議を行ない2月中旬より西端部約500mの全面発掘調査を実施し、3月25日に本年度の事業を完了した。（松田）

2. 調査の方法

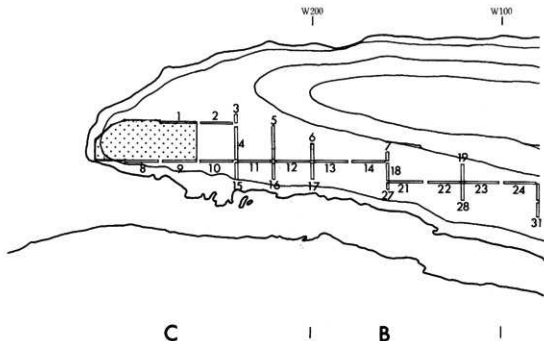
調査の対象は、建設省近畿地方建設局が紀の川の流路拡幅のために削平を予定している船岡山南半部の幅員(南北)20～30m、延長(東西)約500mの緩傾斜面である。本年度は遺跡の範囲、内容を確認するため削平予定地内に幅員2m、長さ20m(南北方向の試掘溝は、地勢からこれより短い。)の試掘溝を設定し調査を実施した。

調査地区の地区割は、基準線を鳥の高所に鎮座する巖島神社に到る階段の側縁に求め、この延長線上に原点を設けた。原点より東はE、西はW、南はS、北はNを冠し、これに原点からの距離で地点を表示した。また、地区名は0～W100をA区、W100～W200をB区、W200～300をC区、0～E100をD区、E100以東をE区とした。

発掘調査は、遺構を確認した場合はその検出面で調査を止め実測図、写真撮影を行ない、確認されない場合は地山面までの掘り下げを行なった。各試掘溝については、土層断面図、写真を作成した。（富加見）

3. 位置と環境

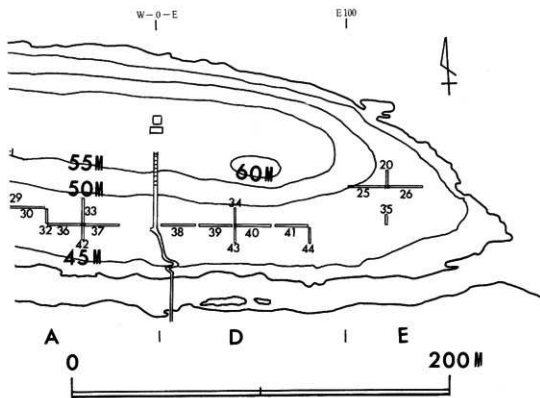
奈良県大台山系に源を発する吉野川は、県境を越えるとその名を紀の川と改め蛇行をくり返しな



がら西流し和歌山県伊都都かつらぎ町西端に到り河幅をいっきよに減じている。この紀の川の河幅が狭まったところ中島・船岡山が位置し、その南岸に妹山が、その北岸に背(兄)山が対峙している。古来より景勝の地として知られ『萬葉集』をはじめとしてその後の多くの和歌集にこの地を詠んだものがおさめられており、また、浄瑠璃「妹背山婦女庭訓」により遍く知られているところである。

船岡山は東西500m、南北120mの稜状の島で、南側は緩傾斜の幅20~30mの平坦部が広がり、これに続く南斜面は河原石の石垣による畑が頂上部付近までつくられているが、東半は岩盤の露頭がみられるのと、叢鳥神社が祀られていることもあってここから北斜面は雑木林となっている。南側平坦部と頂上部との比高は13~14mあり、また島の四周は断崖状になっている。南岸とは30mしか離れておらず妹山北麓とはかつて地続きであったことをうかがわせる。北岸とは紀の川主流をはさんで約80mの距離があり、現在は麓に人家の密集した背山を望むことができる。

つぎに周辺の遺跡についてみると、遺跡の数は少なく南岸では弥生時代の沓田遺跡と古墳時代の西沓田1号墳があるのみである。西沓田1号墳は、本遺跡調査中の昭和55年 月密柑畑の耕作中に発見された箱式石棺を主体部とするもので直刀一口が副葬され、人骨が遺存していた。北岸に眼をうつすと縄文時代では移遺跡、弥生時代では佐野、笠田Ⅱ、萩原の各遺跡が知られている。このうち調査が行なわれているのは、奈良時代前期の佐野廃寺跡下層の佐野遺跡と萩原遺跡である。萩原遺跡では中期の壺棺墓1基が検出されたただけであるが、佐野遺跡では後期の竪穴式住居址9棟、古



第 1 図 トレンチ配置図

墳時代のもの1棟のみ見つかった。

佐野庵寺は、法起寺式の伽藍配置をもち、塔、金堂、経蔵等が確認されており、『日本霊異記』にみえる「伊都郡桑原の狭屋寺」との関連を推定させる寺院跡である。萩原遺跡は、弘仁3年(812)以前の南海道萩原駅家跡推定地として昭和53年度に発掘調査が行なわれたが、前述の壺棺墓と室町時代頃の掘立柱建物等を検出したただけであった。しかし、この付近一帯が、神護寺領持出庄の庄域にあたることは、地元萩原に鎮座する宝来山神社と神護寺に所蔵されている絵図から明らかことから、庄園との関連を考慮することができる。この他には瓦、瓦器等の出土で知られる笠田I遺跡、笠田墳墓等の鎌倉時代の遺跡があるが、調査が行なわれていないため不明の部分が多い。以上にみられる北岸にある遺跡は、いずれも標高50～60mの段丘上に位置していることが特徴的である。

(松田)

4. 調査の概要

1) 層序

調査地区は東西に約500mと長く、それに比して南北は20～30mと細長く、標高は45m～50mをはかる。一見平坦に見えるが、北から南へ緩やかな傾斜をもっている。現在、船岡山は島となっているが、地形からみて往時南岸妹山とは地続きであった可能性が大きく、今回調査の

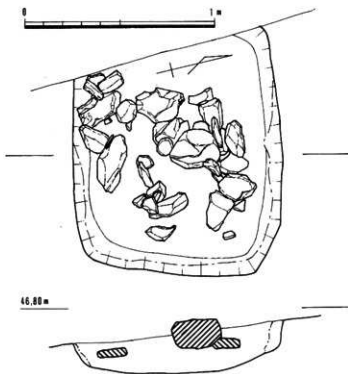
対象となった部分が谷状になっていたと考えられる。これは岩盤の状況とも一致している。

層序は、場所によって異なり現在の地表から地山面まで2～5層に分けることができ、特に東端部では紀の川が運んできた砂層が顕著となる。P L 3は層序を模式的に表示したものであるが、中世の遺物を包含する淡茶褐色包含層はW180～250の間約70mに限りて認められるものである。弥生式土器を包含する黄灰色砂質土は調査地区の西半部のほぼ全域に認められるもので最も広がりをもつものである。同じく弥生式土器を包含する暗茶褐色砂質土は、W180～W240の間約60mに認められるもので中世の包含層とほぼ重なり合うところから、かつてこの部分が浅い落ち込みを形成していたとも考えられる。

2) 遺構

試掘溝で検出した土壌墓、配石遺構及び西端拡張区で検出した竪穴式住居址、掘立柱建物がある。

●土壌墓(第2図) 第4トレンチで検出したもので、北から南へ下がる傾斜面につくられた1.1m×1.3m以上、深さ0.2mをはかる。壁周に焼土が認められ、境内には礫が多数込っていた。副葬品は認められなかったが、中世の遺物包含層を切り込んでおり中世末から近世初めのものと考えられる。



第2図 土壌墓実測図(第4トレンチ)



第3図 配石遺構実測図
(第17トレンチ)

●配石遺構（第3図）第17トレンチで検出したもので、明瞭な掘り方は検出できなかったが、緑色片岩の上に土師器の羽釜（第4図1）が置かれていた。中世の墓地と何らかの関係をもつものとも考えられる。

●竪穴式住居址（SB1）（PL2）径約9mをはかる円形の住居址であるが、更に発見が予想されるため調査は来年度に行なうことにした。

●掘立柱建物（SB101～SB105）（PL2）SB101は2間×4間の南北棟をもつ建物で今回の調査で検出したものうち最も大きなものである。SB102は2間×2間の建物で、SB104と棟方向が同じである。SB103、105は1間×1間の北西～南東の棟をもつ建物である。SB104は1間×1間に廂がつくものでSB102と関係をもつものと考えられる。いずれの柱の掘り方も20cm前後で、覆土中より弥生式土器を検出しているが、現在のところ時期を決めることはできない。

5. 出土遺物

調査地区のほぼ全域から弥生式土器が出土し、B、C両地区からは限られた範囲内で中世の遺物包含層があり、羽釜、瓦器碗等が出土している。

弥生式土器 器種としては、甕、壺、甔、高杯、鉢、蓋、小型の手捏ね土器、紡錘車等がある。いずれの器種にも若干の砂粒（石英、長石等）を含み、胎土は比較的精選されており、焼成も良好なものが多い。時期的には畿内第Ⅳ～第Ⅴ様式に位置するものである。

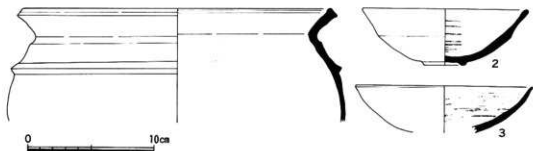
●甕（1～10）口縁部の形状から2種に分類できる。口縁部が「く」の字形に外反するもの（1～3）と「く」の字形に外反し、端部を上方へつまみ出したもの（4～6）である。前者は頸部内面に指頭による調整痕が認められる。体部は叩き目をもつもの（1、2、4）とヘラ磨きを施したと思われるもの（3）とがある。底部は上げ底状のもの（7～9）と平底のもの（10）とがある。

●甔（11、12） いずれも焼成前に穿孔が行なわれたもので、（11）は叩き目が施されている。

●壺（13～27） 口縁部の形状によって7種に分類できる。

- (1) 口縁部が「く」の字に外反するもの（13）。
- (2) 凹線文をもつもの（14、15）。
- (3) 無文のもの（16）。
- (4) 刺突文及び篋描き文様をもつもの（17）。
- (5) 垂下させた口縁部に竹管文を施したもの（18、19）。
- (6) 凹線文及び円形浮文を施したもの（20）。
- (7) 直口する口縁部に4段の竹管文を施したもの（21）。

体部はヘラ磨きによる調整が行なわれ、内面はヘラ削りによる調整のもの（22、23）と刷毛目調整



第 4 図 出土遺物

のもの (24.25) がある。底部はすべて平底である。この他台付壺 (26.27) がある。

●高杯 (28~34) (28)、(29) はゆるやかに外反する口縁部をもつ杯部の破片である。(30) は口縁部を欠くが、脚部は中空で杯部との接合は円板を充填している。脚部は裾部が大きく広がるもの (31) と比較的太くあまり広がらないもの (32) や、三段の透孔をもつもの (33) さらに円筒状のもの (34) がある。

●台付鉢 (35.36) いずれも鉢部を欠いているが、低い脚をもっている。外面は丁寧なヘラ磨きが施され、内面はヘラ削りが行なわれている。

●蓋 (37) 頂端は直径3.6cmをはかり中央部は凹んでいる。外面は丁寧なヘラ磨きが施され、内面はヘラ削りによって調整されている。

●小型土器 (38) 器高5cmをはかり台が付くものである。

●紡錘車 (39) 甕の体部を利用した5.6cm×5.1cmをはかるものである。

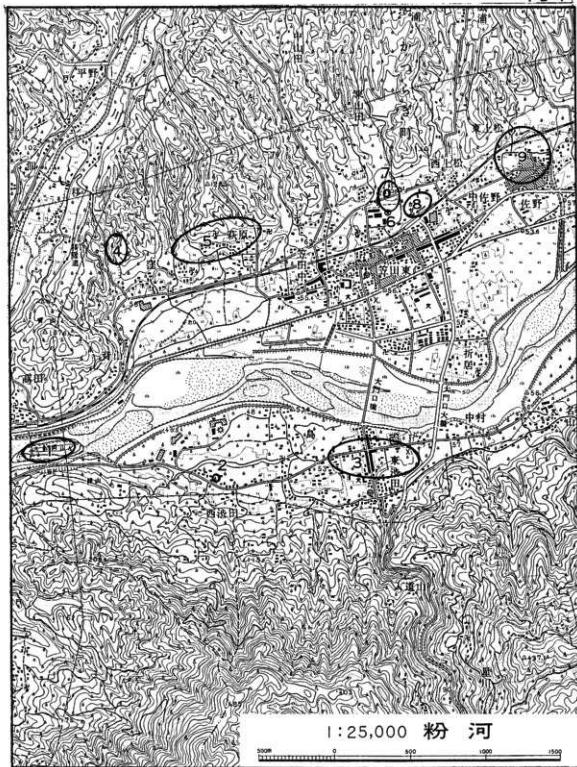
土器器 羽釜 (1) は配石遺構から出土したもので体部下半を欠いているが、口径約25cmをはかる。鈎部は断面三角形で小さくつけている。体部外面に煤の付着がみられる。

瓦器 椀 (2.3) はいずれも包含層から出土したもので、器壁は厚く、ともに太い暗文が認められる。(富加見)

6. 結 語

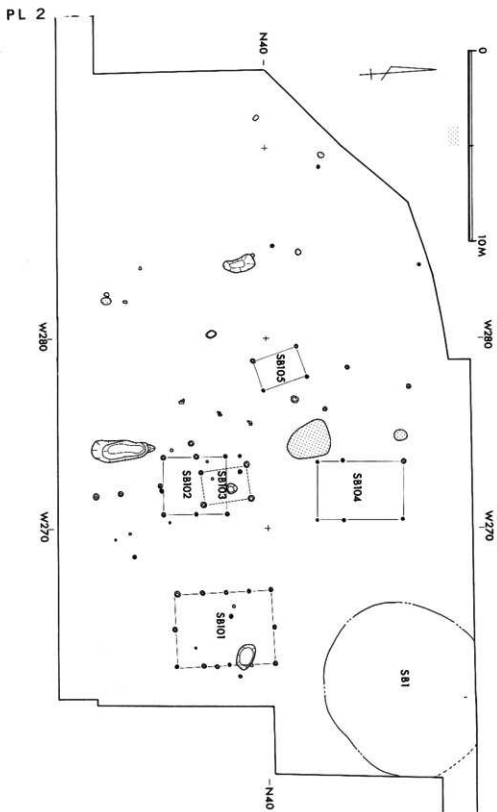
船岡山遺跡は、昭和25年5月笠田高等学校の生徒が船岡山の開墾地において土器片を採集したことから同年夏に当時、国学院大学に奉職されていた金谷克己氏と笠田高等学校郷土研究部の生徒等によって小規模な発掘調査が行なわれた弥生時代の遺跡であることが明らかにされた。島の一部は開墾され柑橘、柿畑にされ現在に至っていたが、建設省近畿地方建設局は紀の川治水対策の一環としてこの船岡山の一部を削平することになり、30年後に再び発掘調査を実施することになった。

本年度の調査は、削平予定地全域を対象とし、遺跡の範囲、内容を確認することであったが、一部拡張した結果壱六式住居址、掘立柱建物等が検出されたことから、全面発掘調査を実施する必要がある。(松田)



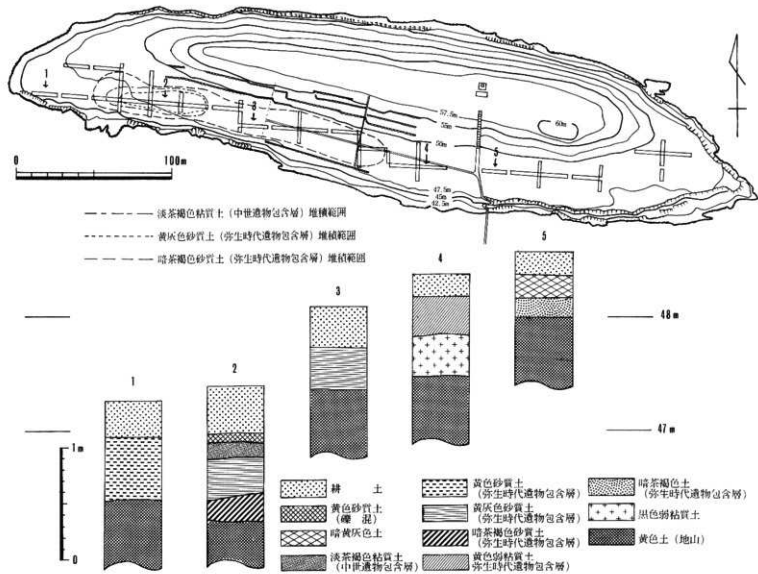
- | | | | |
|----------|-----------|----------|---------------|
| 1. 船岡山遺跡 | 2. 西浜田1号墳 | 3. 浜田遺跡 | 4. 移遺跡 |
| 5. 萩原遺跡 | 6. 笠田I遺跡 | 7. 笠田遺墳墓 | 8. 佐野庵寺, 佐野遺跡 |

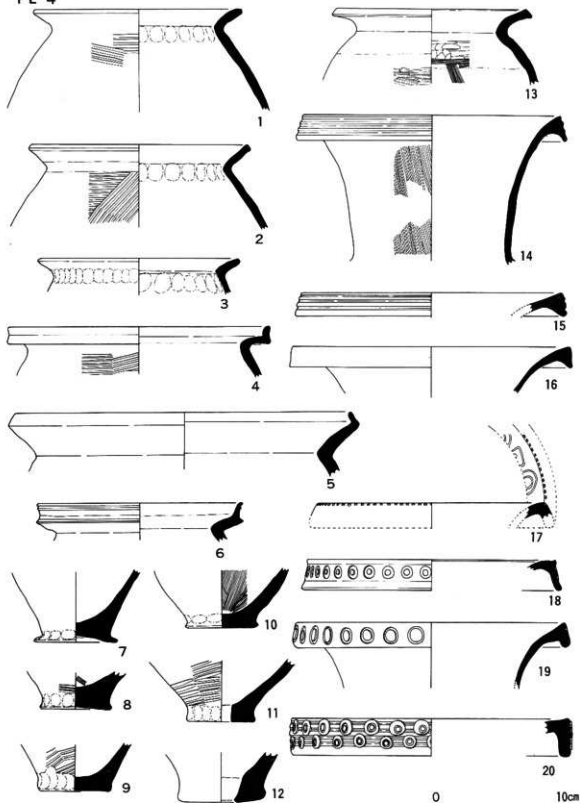
船岡山遺跡 位置図



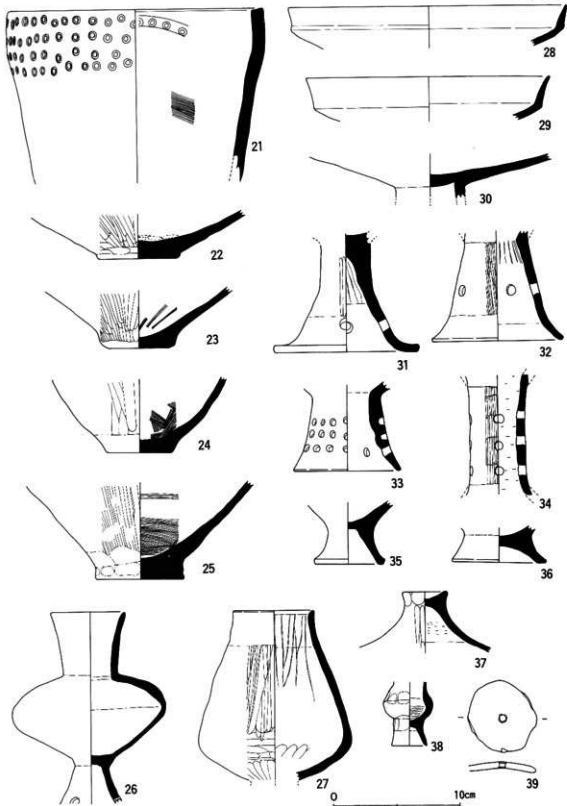
西擴張區遺構配置圖

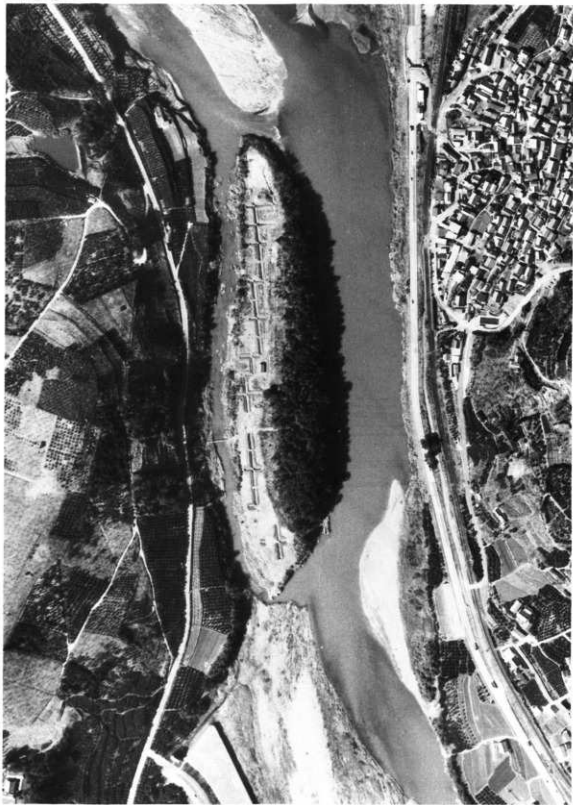
調查地區土層圖





出土遺物実測図









船岡山遠景（東より）



船岡山遠景（西より）



発掘調査状況



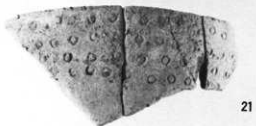
発掘調査状況



西拉張区



西拉張区細部



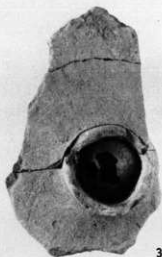




28



29



30



37



38



31



32



35



36



33



34



39

船岡山遺跡発掘調査概要

昭和55年3月

発行 和歌山県教育委員会

印刷 邦上印刷